

■小野広胖(友五郎) 和算家、技術官僚。遣米使節に随伴、測量技術で米国士官を驚かせ、将軍に単独謁見榮譽ほか。逸話多数。

おのこうはん

杉田玄白没・1817＝ 常陸国笠間で、下級藩士小守庫七宗次の四男に生まれる。母は飯田登和。

水野忠成老中1818＝ 1歳：

・・・・・・ 1826＝ 9歳：

身分低くても立身出世の道が開ける数学の才能があり、

鼠小僧磔・・ 1832＝15歳： 笠間藩和算教授甲斐駒蔵に師事するや、たちまち頭角を現して、
天保大飢饉始1833＝16歳： 同藩の小野柳五郎の養嗣子となり、家督を継ぐ。

滑稽+人情本 1835＝18歳：

大塩平八郎乱1837＝20歳：

数学の知識を活かして地方手代を務めていたが、

天保改革始・ 1841＝24歳： 江戸詰を命じられて、深川の下屋敷で元締手代になると、師駒蔵の師の子和算家長谷川弘に入門、

天保改革終・ 1844＝27歳：
阿部正弘首座1845＝28歳：

・・・・・・ 1847＝30歳： 上総郷土赤井庄五郎の娘津多と結婚。

尊徳報徳論・ 1851＝34歳： 師駒蔵とともに伏題免許取得者となった上、門人を代表するまでになり、
万次郎帰国・ 1852＝35歳： *師駒蔵と「量地図説」を著わす。坦庵老中阿部正弘の抜擢で天文方足立信行の下役となり、
ペリー来航・ 1853＝36歳： のち英語のサポートを受けることになるジョン万次郎と出会い、江川坦庵に砲術や軍学・オランダ語を学びながら、馬場佐十郎が翻訳するオランダの航海術書の専門的知識の解説を担って、
開国開港・・ 1854＝37歳： ペリーが将軍家定に贈呈した蒸気車の模型(後に軍艦操練所に下げ渡し)を江川が江戸城内で運転して上覧するのにも接したと考えられる。「渡海新編」4巻を完成させると、再び、老中阿部正弘の抜擢で、
安政大地震・ 1855＝38歳： *長崎海軍伝習所へ派遣され、地元笠間藩でも下級藩士から一気に上士と異例の出世。和算の知識をもとに抜群の理解力を示して、オランダ人を驚嘆させ、特別に出島に招かれ、微積分まで教えて貰って、
松下村塾・・ 1856＝39歳： 予定より早く、オランダが献上した軍艦(観光丸)の江戸へ回航する役を担う優等伝習生の一人となって、
蕃書調所・・ 1857＝40歳： 江戸にもどり、ジョン万次郎とともに、築地軍艦操練所教授方となる。「算盤独稽古」。
桜田門外変・ 1860＝43歳： 遣米使節に従う軍艦奉行木村芥舟を提督とする(威臨丸)測量方主任となり、帰米のため乗船していた米国士官ブルックもその技量に舌を巻くほどで、以後親交し、帰国後は、日本人のレベルの高さを示す役割をしたと軍艦奉行の報告で、(艦長の勝海舟すら許されなかった)将軍に単独謁見の破格の榮に浴し、笠間藩ではさらに破格の昇進。海軍充実の必要性を感じ、軍艦奉行に、国産蒸気船の建造を具申、

遣欧使節・・ 1861＝44歳： 小型蒸気軍艦の建造が許可され、軍艦頭取に任ぜられ、ついに幕臣となる。米国や英国の進出に対して、ジョン万次郎が領有・捕鯨基地化を提案したことから調査することになった小笠原諸島に、威臨丸の頭取指揮として出動し、詳しい測量図を作成、日本領有の大きな手がかりとなる。
生麦事件・・ 1862＝45歳： 幕府で初めてとなる国産蒸気軍艦「千代田形」の建造を指揮。科学的な海防論「江都海防真論」を著す。
禁門の変・ 1864＝47歳： 連名で「東海道筋鉄道巡覧書」を提出後、中仙道筋の踏査・測量に出かける。工部省新設で異動。横須賀製鉄所設立に関与し、造船所候補地の実地調査にも赴く。
薩長同盟・・ 1866＝49歳： 河合鎬吉郎の娘うたと再婚。第二次長州征伐で海軍充実の必要性を痛感した幕府から軍艦調達の命受け、
大政奉還・ 1867＝50歳： 再渡米し、南北戦争直後の困難な事情下、大統領や国務長官と会見、初めて蒸気車にも乗るなどしながら、海軍省との交渉の末、ストーンウォール号の購入に成功、鉄砲なども購入して帰国、勘定奉行並に昇進、叙爵して内膳正となり、名を広胖と改める。新将軍徳川慶喜に仕え、鉄道建設のためもある、京坂を往復するうち、大政奉還となり、鳥羽・伏見の戦いにおいても後方で兵站業務に携わるが、徳川軍は敗退。慶喜も逃げてしまうなか、海軍伝習所時代の後輩榎本武揚とともに殿軍として残りの幕府軍艦で江戸へ引き上げる際、大坂城御金蔵に貯蓄されていた古金18万両を江戸へ持ち帰る。

明治維新・・ 1868＝51歳： 恭順路線を進める勝・慶喜の方針で、逼塞となった上、新政府からは、主戦派の首魁と目され、死刑は免れるも下獄、徳川家の駿府藩への移封が決定された際、出獄を赦され、しばらく自宅謹慎の間、製塩技術の改良に興味を抱き、研究を行っている。

初の日刊新聞1870＝53歳： *海軍省から出仕要請を受けるが、固辞。殖産興業のための鉄道建設という宿志で、鉄道敷設の測量要員徴仕に応じることを決断、民部省に出仕、新橋―横浜鉄道建設の日本政府側の技師長のようになり、東西両京を結ぶ実際のルートを決済すべく、佐藤政義とともに、東海道筋の踏査に出張し、調査結果をまとめて、

廃藩置県・・ 1871＝54歳： 連名で「東海道筋鉄道巡覧書」を提出後、中仙道筋の踏査・測量に出かける。工部省新設で異動。
学問のすすめ1872＝55歳： 東京―青森間のルート調査に出発したが、中仙道の調査を急ぐ事情が発生し、間もなく呼び戻され、
明治6年政変 1873＝56歳： 二回目の中仙道の測量・調査に出張後、過労のために倒れ、上州草津温泉で療養し、ふたたび東京―青森間の踏査・測量に出発。数学教育にも熱心で、大木喬任文部卿に、前年の学制発布で廃止された珠算の復活を建言し、実現する一方、西洋式数学の普及にも努める。

三つの内乱・ 1876＝59歳： 内務卿大久保利通に、中央天文台設置を建言。実現しなかったが、のち東京天文台に発展。
西南戦争・・ 1877＝60歳： 朋友で上司でもあった鉄道寮助佐藤政義が死去して鉄道における「幕末派」時代が終焉すると、*退官し、家督を養子に譲って隠居。発足した日本初の数学学会(東京数学会社)に参加する一方、なお(長谷川社友)の斎長に養まって和算を捨てず、千葉県大堀村の塩田跡地を借り受け、官許の下製塩事業に着手、

琉球処分・・ 1879＝62歳： 竣工し、
・・・・・・ 1880＝63歳： 独自の天日製塩法を完成させて、試験操業を開始、
明治14年政変1881＝64歳：

帝国憲法発布1889＝72歳： 工部省鉱山局の筑前鞍手郡の九州炭坑鉄道計画のため、もう一度鉄道測量にかり出される。
帝国議会始・ 1890＝73歳： 旧幕臣栗本鋤雲らと、文部大臣芳川顕正に対し、漢字制限の提案を行う。

郡司千島探検1893＝76歳： 尋常小学校用の教科書「新撰洋算初歩」を編纂するなどし、
日清戦争始・ 1894＝77歳：
子規句歌革新1898＝81歳： 緑綬褒章。兵庫県印南郡大塩村で炎天下で、天日製塩の実地講習の最中に倒れ、帰京後、没した。

新潮新書「江戸の天才数学者」、インターネット(古書中公新書「威臨丸航海長小野友五郎の生涯」ベース)、